

個別最適な学びと協働的な学びをサポート 学習支援 Web サイト「With タブレ」

学習デジタル教材コンクール 文部科学大臣賞（団体）受賞！

令和 4 年度長期研修（専門研究）の教育の情報化グループの研究成果物である学習支援 Web サイト「With タブレ」が、公益財団法人学習情報研究センター主催の学習デジタル教材コンクールにて、最高賞の**文部科学大臣賞（団体）**を受賞しました。

「With タブレ」は、児童生徒の資質・能力の育成を目指し、主体的な学習者を育てることをねらいとした学習支援 Web サイトです。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて、探究的な学習場面で児童生徒が自ら学び方を選択し、課題を解決することができるように3つのステップを意識して作成されています。総合的な学習の時間以外にも、さまざまな授業で使うことができる学習支援 Web サイトです。今年度の M ナビ新聞では、学習支援 Web サイト With タブレを使った実践を紹介していますので、ぜひ、御活用ください。



最新情報

特定非営利活動法人みんなのコード

2022 年度プログラミング教育・高校「情報 I」実態調査

「特定非営利活動法人みんなのコード」は、Google、株式会社セールスフォース・ジャパン等の支援のもと、日本国内の学校教育におけるプログラミング教育・高等学校「情報 I」の現状に関する報告書を 2023 年 8 月 9 日に公開しました。前回の調査（2021 年 12 月）との比較に加え、高校教育向けの調査を新設し、プログラミング教育及び高校「情報 I」の現状が取りまとめられています。報告書から考察の一部を御紹介します。

（プログラミングへの印象）

自分の将来の職業や仕事にプログラミングが関わる可能性を感じている子供が前回調査より増えている。

（保護者の理解と期待）

学校でパソコンを活用するときに期待することとしては、基本的な使い方について、プログラミング教育を挙げている。



特定非営利活動法人
みんなのコード
プログラミング教育・高校
「情報 I」実態調査

現学習指導要領では、全校種でプログラミング教育の充実が図られ、新しい時代に必要な能力としてプログラミング的思考が位置付けられています。小中高それぞれの発達段階で求められているプログラミング教育について理解を深め、小中高の接続を意識した授業実践を増やしていくことが重要です。多くの授業実践を通して、児童生徒の「プログラミング的思考」を伸ばしていきましょう。

事例紹介	With タブレを使った授業実践 白石市立白川小学校 齋藤 裕直先生
------	---------------------------------------

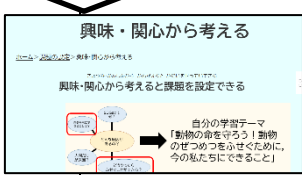
学校名	白石市立白川小学校	教科、領域	社会(小学校3年)
-----	-----------	-------	-----------

概要	<p>・主な学習活動 ★活動の留意点</p> <p>単元名「はたらく人とわたしたちの暮らし」(11時間扱い)</p> <p>【単元を通して】</p> <p>児童は自分たちの身の回りの生産に関する仕事について調べ、興味・関心に応じて農業や工業の仕事を選択した。児童が学習方法を選択する場面を多く設定することで、単元を通して主体的に学習を進められるのではないかと考えた。また、児童は Jamboard を活用することに慣れてきたため、主に Jamboard を活用した。</p>
----	---

課題の設定>イメージマップ



課題の設定>興味・関心から考える



情報の収集



① 課題の設定

- ・インターネットで、市内の農業や工業について調べる。
- ・調べたことから、農業と工業のどちらの仕事について学習したいか選ぶ。
- ・Jamboard のイメージマップで、選んだ仕事について調べたいことを詳しく考える。【写真1】
- ・Jamboard の付箋の中から、一番調べたい内容に印を付け、焦点化する。

★自分たちの生活との関連を踏まえて学習することから、教科書を参考にしつつ、身近な地域にある産業を調べることを意識させた。また、児童が With タブレ「課題の設定」の「興味・関心から考える」のページを参考にしたことで、児童が主体的に、課題を設定することができた。

② 情報の収集(学習中)

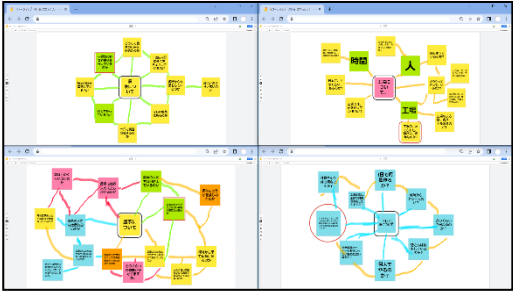
- ・選んだ仕事について、With タブレ「情報を収集する」のページから、インタビューしたい方法を選ぶ。
- ・With タブレ「オンラインでつながる」や「Google Meet」を参考にして、Google Meet でインタビューをする。

★児童の意見を把握した後に、教師が相手先に連絡をした。農家の方とは Google Meet でインタビューをする予定。工場の方には、学校に来ていただいて、仕事の説明を聞いたり、インタビューをしたりする予定。

③ まとめ・表現(今後の予定)

- ・農業の仕事についてまとめた児童と、工業の仕事についてまとめた児童が、お互いに学習したことを発表し合う。

★発表し合うことで、地域の産業について、多面的な理解をねらう。



【写真1】児童が作成した Jamboard

使用機材 ソフトウェア	Windows タブレット、電子黒板 アプリケーション・・・Google Jamboard
----------------	--

県内の先生方へ	<p>この単元は、農業か工業の仕事のどちらかの内容をクラス全体で選択し、学習することが多いかと思います。しかし、With タブレや ICT を活用すれば、児童それぞれの興味・関心に応じて学びたいことを選び、学習を進められるのではないのでしょうか。今回は Jamboard を中心に使用しましたが、「この単元ではこのアプリケーションのスキルを身に付けさせる」というように教科や単元でねらいを絞って指導し、その積み重ねによって、児童の情報活用能力が身に付いていくのではないかと思います。</p>
---------	---

編集後記	<p>Mナビ新聞-情報教育通信-第18号はいかがだったでしょうか。今回は、学習デジタル教材コンクールで文部科学大臣賞(団体)を受賞した学習支援 Web サイト「With タブレ」を改めて紹介させていただきました。ぜひ、「With タブレ」を児童生徒に紹介していただき、使ってみてはいかがでしょうか。(第18号担当 千坂)</p>
------	--